

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）
<p>1 学習指導</p> <p>ア 学カスタンダード指定校活動を通して「自発学習」させ、学力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己効力感を育てる。 ○ 毎回の小テストや自宅課題の工夫で「自発学習」を習慣づける。 ○ 学力調査問題を作成実施（2回）し、学力を定点分析と経過分析する。 ○ 基礎力診断テスト結果を活用し、外部模試も積極的に活用する。 <p>イ 長期休業中にも学習指導を切らさない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講習・補習計画を6月までに提示する。 ○ 発展的な学習を望む生徒にも十分な指導を行う。 <p>ウ 授業の質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業、相互授業見学や授業実践交流会を行い、授業改善に生かす。 ○ ICT機器を使った授業展開に挑戦する（年最低1回）。 ○ 生徒による授業評価を行い、授業改善策を各教員でまとめる。 ○ 生徒・保護者、卒業生が参加した授業評価委員会を開催し、結果を授業改善に生かす。 <p>2 進路指導</p> <p>ア 組織的なキャリア教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立する。 ○ 組織的なキャリア教育をキャリア教育部の主導で行う体制をつくる。 <p>イ キャリア教育を通して「社会的な自立」につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年次のキャリア教育により、社会の中での自他の肯定感を高め登校と定着を確立する。 ○ 2年次以降のキャリア教育により、仲間同士の支え合いの中で自己の社会的役割に気づかせ、進路意識を高める。 <p>ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の目標となる大学を積極的に開拓する。 ○ 特別支援教育に配慮した指導を行う。 ○ ベネッセや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。 ○ 自立のための社会的技能・態度等をまとめた「稔ミニマム」策定の議論を進める。 	<p>1 学習指導</p> <p>ア 「学カスタンダード推進校」として校内体制を整え、組織的な研究活動を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象を5教科から9教科にして拡大実施。 ○ 各教科で学カスタンダードのためのビジョンとステップマップを作成した。 <p>「学カスタンダードのビジョンとステップマップを凶解」にまとめ研究紀要に掲載した。</p> <p>イ 長期休業中の学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 講習・補習はのべ90講座実施した。 ○ 発展的な学習希望の生徒には個別対応を行った。 <p>ウ 授業の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相互授業見学は教員毎に3回、授業実践交流会を1回実施した。教育研究員及び東京教師道場リーダーの模範授業をして授業力向上に努めた。 ○ ICT機器を活用した授業が活発になり、特に数学においては高いレベルで成果を出した。 ○ 生徒の授業以外での学習活動が活発になり、自発学習の成果が表れた。 ○ 授業評価委員会を3回開催し、生徒や保護者のプラス意見も得られた。 <p>2 進路指導</p> <p>ア キャリア教育部を中心に組織対応を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一貫したキャリア教育を確立するために各年次の意見を積極的に取り入れた。 ○ 「キャリアデザイン」の展開を年次と連携の下に再構築した。 <p>イ 意欲向上するキャリア教育を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「進路通信」は2回発行し好評を得た。 ○ 進路希望把握は面接を通して実施した。 ○ 面接・小論文指導等を組織化した。 <p>ウ 自立につながる進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一般試験による大学合格も成果を出した。 ○ 専門学校での精査を徹底して指導できた。 ○ 就職希望者10名も最後まで就職斡旋できた。 ○ 地域の若者サポートステーションと連携し、校内で相談活動を実施して、複数の生徒を指導に乗せた。
	4
	3

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>3-1 生徒指導（学校生活） A/A 活動、N/N 活動として組織的に指導する。 ア 安心安全な学校を作る。 イ 生命と人権の尊重、自他のチャレンジ尊重 ウ 落ち着いた学校生活をおくらせる。 エ 校服の正しい着用、「笑顔で挨拶」の励行 オ きれいな学校環境を守る。 カ 校内清掃の徹底、ゴミ分別を発展させる。</p>	<p>3-1 生徒指導（学校生活） 「当たり前のことを当たり前」「ならぬことはならぬ」を提唱したが、まだ定着していない ア SNS等、ネット上で他を誹謗中傷する事案が増えた。 イ 一部スカートの短い生徒が出てきている。 ウ きれいな学校作りとして、生徒主導によるゴミ分別制度を実施。ゴミは一般校の1割。自発的な「掃除部」が活動開始した。</p>	3
<p>3-2 生徒指導（特別活動・部活動） ア 文化祭、みのり杯等の学校行事を充実。 イ 生徒の自主性を育てる生徒会活動を充実。 ウ 生徒の個性を引き出す部活動を活性化。</p>	<p>3-2 生徒指導（特別活動・部活動） ア 文化祭では、1500名が来校。 イ 生徒会が安定。会計処理が進んだ。 ウ 吹奏楽部が入学式、卒業式で前年度に続いて演奏活動を行った。</p>	4
<p>3-3 生徒指導（防災教育） ア 災害に備えた校内体制（防災委員会） イ 震災を想定した防災訓練（年4回） ウ 災害に対応できる備蓄（企画室、総務部）</p>	<p>3-3 生徒指導（防災教育） ア 携帯型防災ポケットメモを作成配布した。 イ 震災を想定した防災訓練を年4回実施した。 ウ ヘルメットを全職員が使用して防災訓練を実施した。</p>	5
<p>4 保健指導（心と体の健康づくり） ア カウンセリング委員会を中心に相談機能（SC、みのりの場等）の連携を強化。 イ 情報交換会における生徒情報を生かし、特支教育コーディネーターを中心に支援企画。 ウ 学校保健計画、学校安全計画を立案し実行。</p>	<p>4 保健指導（健康づくり） ア 保健計画を立案し、カウンセリング委員会を中心に保健相談機能が安定してきている。 イ 保健室来室者統計を毎月発行し、生徒状況を全校で把握。見える保健室づくり。 ウ 心理系大学院生との連携組織化も安定した。</p>	4
<p>5 募集・広報活動 ア 個別相談、学校説明会、募集要項説明会を通して受検者や保護者の学校理解を深化 イ 入学選抜検査を分析し、本校で真に力を発揮できる生徒が選抜できるよう精査する。 ウ 毎月1回の頻度で学校ホームページ更新。</p>	<p>5 募集・広報活動 ア 個別相談の簡素化を図り、1回の内容を充実させた。650回実施。 イ 入学選抜は一本化したが、受検者数は1.45倍であった。 ウ HP更新が定期的となり安定化した。</p>	4
<p>6 地域交流、保護者 ア 地域小中学校、町会・地区委員会等、地域との連携を強化する。 イ ボランティア活動を推奨し、地域と交流。 ウ 保護者の会「みのりの会」の組織化を支援。</p>	<p>6 地域交流、保護者 ア 地域や他校からの見学来校が増え、教育活動の公開が進んだ。 イ 生徒のボランティア活動が定着した。 ウ 「みのり保護者の会」が設立され年間に渡り充実した活動を行った。</p>	5

2 次年度の課題

<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の授業時間以外での学習取り組み（自発学習）が学校の過半数生徒の自発学習するようになってきた。さらに、安定化させる取り組みを検討する。 2 3、4年次のキャリア教育科目（キャリアサクセス）の内容充実を行う。 3 落ち着いた生活環境が落ち着いた学習へと沁みていくことから、生活指導は継続して徹底していく。 4 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会中心に情報共有化を進める。 5 大規模な地震への対策として、防災ポケットメモの活用を推進する。 6 ゴミ分別活動など美化委員会が中心となった活動を今後とも推進していく。 7 「教員の定着」を通して、安定したチャレンジの教育が継続的に行われるようにする。 8 「生徒の転・退学者数」を減らし、生徒が定着する稔ヶ丘にしていく。 9 「10年目のみのり」の姿を共有化して、開校10周年の準備に当たる。
